

## 2021 年度の募集にあたって

昨年、我が国は「2050年カーボンニュートラル」を世界に向けて宣言しました。政府により「グリーン成長戦略」が示され、今後、閣議決定される第6次エネルギー基本計画に基づき、具体的な取り組みが国家プロジェクトなどとして進められることとなります。

現在、年間約12億トンものCO<sub>2</sub>を排出している日本が2050年までにCO<sub>2</sub>排出量ゼロの目標を達成するためには、従来の取り組みの延長線上だけでは困難であり、これまでのビジネスモデルや戦略を根本から変える新たな技術イノベーションが求められます。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大がもたらした「3密」を回避するための行動の制約が、企業行動や個人生活のスタイルを変えようとしています。

脱炭素社会を実現させる電気・エネルギー分野のイノベーションへ挑戦する際には、ポストコロナに於ける企業・個人の行動変容への適合という従来にない条件を考慮することも必要となるケースがあるでしょう。まさに“非連続”へ挑戦することになりますが、歴史を振り返れば、逆境や厳しい制約が新たな発明、新たな方法論などを生み出してきた事績は枚挙に暇がありません。困難に怯むことなく挑戦する次世代を担う新進気鋭の皆さまの新しい発想と気概が大きく期待されるところです。

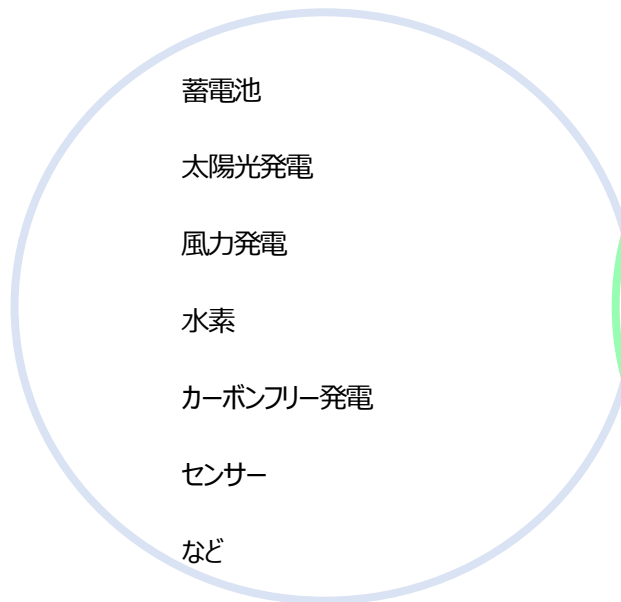
当財団では、1938年の設立以降、電気・エネルギー分野における世界トップレベルの研究者を世に送り出すことを目的に、自由な研究の機会を提供することを通じて、創造的な基礎研究への研究助成を行って参りました。

今回は、前述の社会動向を踏まえ、脱炭素イノベーションをもたらす基礎研究の取り組みを広く公募します。助成対象は、原理、技術の革新を目指す基礎研究、新たな社会システムの構築を目指す統合型研究の2つです。具体的には、前者は蓄電池、太陽光発電、風力発電（浮体式など）、水素、カーボンフリー発電など原理、技術の革新を目指す基礎研究、後者はAI、ブロックチェーン技術などの新技術を活用した電力システム（アグリゲーション、配電網含む）の高度化、エネルギー資源・製造・流通の革新、省エネなどエネルギー利用の効率向上、あるいはグリーン環境技術などに係る革新的な研究です。

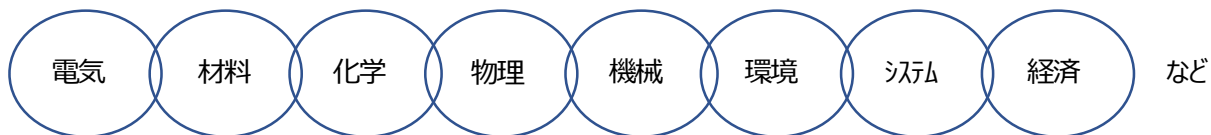
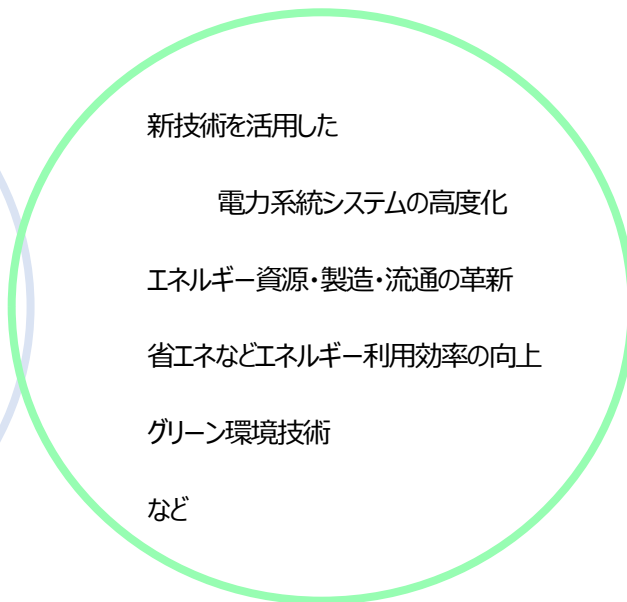
電気・エネルギーはあらゆる学問分野と繋がっています。電気工学のみならず、材料、化学、物理、機械、環境など幅広い専門分野からの応募をお待ちしております。

# 助成対象

## 原理、技術の革新を目指す基礎研究



## 新たな社会システムの構築を目指す統合型研究



学問分野